

論考

「きもの」文化にかかわる教育プログラム開発の教育デザイン

薩本弥生¹⁺、川端博子²⁺、堀内かおる¹⁺、扇澤美千子³⁺、斉藤 秀子⁴⁺、呑山 委佐子⁵⁺

1 横浜国立大学教育学研究科生活システム系教育、2 埼玉大学教育学部、3 茨城キリスト教大学生生活科学部
4 山梨県立大学人間福祉学部、5 大妻女子大学短期大学部
+ 服飾文化共同研究拠点・文化女子大学・文化ファッション研究機構

I はじめに

2006年に教育基本法が改正され、「伝統や文化を尊重し、我が国と郷土を愛するとともに、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと」が新たな教育の目標として規定された。この規程を受け、2008年3月の学習指導要領告示では、国際社会で活躍する日本人の育成のため、我が国の郷土の伝統や文化を受け止め、それを継承、発展させるための伝統や文化に関する教育の充実を図ることが求められている。そして、中学校の技術・家庭科の衣生活分野では「和服の基本的な着方を扱うこともできること」が盛り込まれた。すなわち、日本の伝統文化である和服について着方も含めて理解するための教育、すなわち「きもの」文化をどのように教育していくかについての検討、新しい教育のデザインが必要となってきた。

著者らは、このたび、「きもの」文化を取り扱う新しい教育デザインとして、「きもの」文化に対する理解を深める体験型教育プログラムの開発に取り組んでいる。本報告では、この体験型教育プログラムの開発にかかる研究プロジェクトについて、その概要、および平成21年度の活動内容を紹介し、教育デザインの視点でどう評価されるかについて論じたい。

なお、ここで紹介する研究プロジェクトは、文部科学省の「人文学および社会科学における共同研究拠点の整備の推進事業」の委託を受け、「服飾文化共同研究拠点」として文化女子大学文化ファッション研究機構により採択された、平成21年度から23年度までに実施される服飾文化共同研究、研究課題名『『きもの』文化の伝承と発信のための教育プログラムの開発ー『きもの』の着方を含む体験学習と海外への発信ー』である。

また、プロジェクトメンバーは研究期間、文化女子大学文化ファッション研究機構の共同研究構成員を兼

務する。

II 教育プログラム開発にかかる研究プロジェクトの活動内容

1 研究の概要

研究の概要は図1のとおりである。

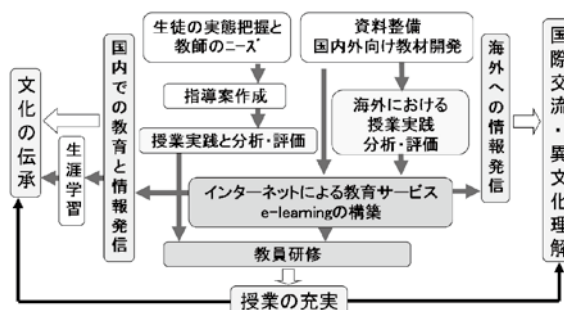


Fig.1 研究の概要

2 授業研究用教材、着装ビデオ作成

男女ひとえ長着（浴衣）の着装・たたみ方のDVDを作成した。着装DVDは、大妻女子大学総合情報センターメディア教育開発センターで、7月に撮影を実施し、8月に日本語版、9月に英語版ナレーションの録音、9～10月に編集を行い、男女浴衣の着装・たたみ方DVDが完成した（Fig.2参照）。

また、着付けに関するテキスト教材に向けてはプロのイラストレータに委託してイラスト作成する他、ゆかた生地産地の産地や工程に関する教材作成のための取材として浴衣の「注染」染め工場の見学を行う。

3 浴衣を題材とした日本での授業研究の実施

浴衣を題材とした授業研究の一環で、7月から10月には協力校の一つ、横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校において葛川幸恵教諭が授業実践し、授業実践研究に着手した。第1学年を対象に、6月～7



Fig.2 浴衣の着装ビデオおよび編集作業風景

月に被服の役割・自分らしい着装について学んだことを踏まえ、洋服とは異なる和服の特性について授業を受けた後、実際に浴衣の着付けを行った。



Fig.3 研究授業の様子

4 海外での着装ビデオを用いた浴衣着装の実践

10月には海外での授業実践の準備としてイギリスのラフバラにおもむき、日本人会およびラフバラ大学の Design & Technology Department の共同研究者 Zanker 氏の協力により、現地の大学生および社会人対象に授業研究の準備段階として①日本の伝統文化に関するアンケート、②開発した英語版着装ビデオを用いた浴衣の着装体験、③浴衣の着装・たたみ方ビデオの評価、④着装後の着装感についてのアンケートを行った。着付けワークショップの様子は、以下のラフバラ大学のホームページで紹介されている。

http://www.lboro.ac.uk/service/publicity/news-releases/2009/142_JapaneseTeachers.html



Fig.4 イギリスでの浴衣の着付けワークショップ

III 教育デザインの視点からみた教育プログラム開発のための研究プロジェクト活動

紹介された教育プログラム開発の研究活動は、大きく二つに分けられる。一つは、国内の中学生を対象とした教育活動、もう一つは海外の中学生を対象とした活動である。従来の教育プログラムの開発は、特に日本の文化を題材とした場合、国内に限られるものと考えられるが、海外からの観光客も増えている今日、国内の中学生を対象とした教育プログラムを基盤に、海外での教育プログラム開発まで検討した教育のデザインは、今までにない試みといえる。

従来、和服文化の伝承の媒体として浴衣をとらえた研究^{1)~4)}は見られるが、教育と直結した形での検討^{5)~6)}は極めて少ないと推察される。また、一般に、和服の着装のDVDは販売されているが、これを中学校、高等学校での教育に取り入れることは行われてこなかった。中学生、高校生が見てわかりやすい着装DVDを開発し、研究授業に提供することは、新しい教育デザイン検討として位置づけられる。

「きもの」の着装に関して、教育の現場で実際の研究授業を行い、着装教育にどのような準備が必要であるか、どのような方法がよいか、などの検討は、特に学術レベルでは十分に行われておらず、このような実践の蓄積が、新しい教育のデザインを組み立てていく上で欠くことができない作業である。

本プロジェクトの研究活動では「きもの」の中でも最もカジュアルで身近な浴衣を取り上げる。そして、浴衣を題材とした着装を含む学習を通して、子どもた

ちの心に日本の「きもの」文化を尊重し継承・発展させようとする芽を育むことを意図している。

大学生を主な対象とした「浴衣」に対するイメージ評価に関する研究は、いくらか見られる^{7)~9)}。これらをふまえ、「浴衣」の着装に伴う、中学生・高校生が外見および心の変容により、衣服を着ることについて考えることを促すという側面、衣服の社会的役割について理解するという側面についても十分検討していく。この点でも、衣服に関わる新しい教育デザインのあり方を模索していきたいと考えている。

さらに、海外における「浴衣」の着装教育においても、日本と同様、準備、方法の検討を含め、実践を試み、これをふまえて教育方法をさらに詳細に検討する積み重ねが必要である。

以上のように、本研究プロジェクトの活動は、「浴衣」を題材とした「きもの」文化にかかわる、これまでにない新しい教育プログラムの開発であり、国内外への新しい教育デザインの提示になると考えられる。

今後、「浴衣」を題材として、今回紹介した活動に加え、概要に示したとおり、国内外向けの資料の開発、授業実践と授業方法の検討、さらには、国内外向けのe-ラーニングの構築等の研究活動を行っていく。これらの研究活動により、「きもの」文化にかかわる新しい教育プログラムが開発され、より着実に実践できる教育デザインを示していけるよう活動していく予定である。示された教育デザインは、今後、日本文化の教育が必要とされる教育現場での授業の充実に役立つものである。また、生涯学習にも応用でき、文化の伝承に寄与するとともに、日本文化の海外への発信の一助となると考えられる。

謝 辞

本稿で紹介した教育プログラムの開発は、文化ファッション研究機構の服飾文化共同研究として実施された。ここに、文化ファッション研究機構に感謝申し上げます。また、イギリスのラフバラの日本人会代表の篠沢久二子氏、ラフバラ大学のDesign & Technology Departmentの共同研究者Nigel Zanker氏はじめイギリスにおける浴衣の着装ワークショップに参加下さった皆様、研究授業を担当くださった横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校の葛川幸恵教諭に感謝の意を表したい。

参考文献

- 1) 城 眞理子、内田 恵美子、幡野 暁子、和服文化の伝承媒体としてのゆかたを考える、織消誌41(4),45-55(2000)
- 2) 小菅 充子、布施谷 節子、三世代にわたる生活文化の伝承と将来への展望(4):食生活と衣生活における祖母との同居・非同居の関連性、和洋女子大学紀要・家政系編42、81-89(2002)
- 3) 布施谷 節子、小菅 充子、中島 明子、名取 史織、三善 勝代、三世代にわたる生活文化の伝承と将来への展望(3):男子学生と女子学生の比較、和洋女子大学紀要・家政系編42、109-124(2002)
- 4) 小菅 充子、布施谷 節子、三世代にわたる生活文化の伝承と将来への展望(1):食生活と衣生活について、和洋女子大学紀要・家政系編41、97-106(2001)
- 5) 中村哲編「伝統や文化に関する教育の充実—その方策と実践事例—」(株)教育開発研究所(2009)
- 6) 鈴木明子、被服製作実習における授業プロンプトの有効性の検討-浴衣製作実習における学生の記述分析を通して-、日本教科教育学会誌,26(3)33-39(2003)
- 7) 川上梅、再見による服装イメージ評価の変化--中学・高校・大学生女子の新奇なゆかたに対する印象、織消誌44(11)673-681(2003)
- 8) 呑山委佐子、小嶋葉子、田村友香、女子大生の和服に関する意識と変わり浴衣の受容態度、大妻女子大学家政系研究紀要38、31-41(2002)
- 9) 杉山真理、小林茂雄、女子大学生のゆかたに対するイメージ、共立女子大学家政学部紀要40,37-42(1994)